

Lend a Hand 一 手を貸そう



2003-2004年国際ロータリーテーマを実行しよう



「自己を守らねば」

国際ロータリー第2650地区

2003～2004年度 ガバナー

福井 正典

花の季節を迎えました。「今日、花はいっぱい咲いている。しかも、明日咲くつぼみもいっぱいある」といった心意気で過ごしたいと思います。

見る人・積む人・読む人

会長、幹事の皆さま、ご機嫌いかがでしょうか。桜の花もほころび、日本の一番美しい季節であります。

我々の地区間にも有名な桜の名所が沢山あります。お互いに親睦を深める為に訪れたらどうでしょう。後3ヶ月となった会長、幹事としてゆとりをもってロータリーの会長、幹事職を自分を超えてクラブや会員の中に、クラブや会員と共に楽しみましょう。

本月はロータリー雑誌月間であり、「ロータリーの友」はロータリーの知識と情報の宝庫であります。例会が出席しなければ始まらないように「友」も先ず読みましょう。

あなたは「友」を「見る人」「積む人」から「読む人」になりましょう。

自己を第二位に置こう

ロータリーの標語「超我の奉仕」の基本を振り返って見るのも超我の一つの考え方でありま

す。
超我の奉仕は滅私奉公ではありません。人はみな自己を尊ばなければならないし、自己を守らねばなりません。自分自身が有能でなければサービスも出来ないでしょう。ですから、奉仕といっても自分を捨てて、自分を否定するのではなく、我々は自己を第二位に置こうということでもあります。

相手の立場で物事を考える。自分を越えて相手の中に自分を見出すとでもいうべきでしょうか。これらはロータリーの実践哲学と云われており、実際に行動し、やらないとわからないと考

えます。
ロータリーは基本的には一つの人生哲学であり、自己的な欲求と義務、一方他人のために奉仕したという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするところにあると云われており

ます。
お互いが毎日が勉強であり、例会場は勿論我々の家庭、職場、社会活動、日常生活等すべてがロータリーのバッジをつけている以上実践道場と受け止めましょう。

どうか、自分自身を磨き、その業界、その分野では自分が最も優れていなければロータリアンとは申し上げられないでしょう。

お願い

◇ 6月のロータリー親睦活動月間の立案にクラブ会長として注意を喚起しましょう

◇ 後1ヶ月になりました世界大会に参加してロータリーを知り楽しもうをお忘れないように以上、の実現に、お一人おひとりの「手を貸そう」ではありませんか。



国際大会に “Lend a Hand”

RI2004年 国際大会委員長
千 玄室 (京都RC)

ジョナサンB. マジリアベ会長が、今年度揚げられたテーマ、“Lend a Hand”の邦訳は、「手を差し伸べよう」とした方が適訳と思われるのですが、1978～79年度クレム・レノク会長時の“Reach out”が「手を差し伸べよう」と訳されたため、今回は「手を貸そう」との直訳になったようです。

今年度の最大の行事、大阪での国際大会が目前に迫ってきました。本当に永い間、いろいろな紆余曲折を経ながら、ようやくプログラムも細部まで確定してきました。

参加者は海外より約10,000人、国内より33,000人と当初の目標を超え、大会史上未曾有の登録者となりました。世界のロータリアンが、大阪ドームで一堂に会するのです。

準備を進めて参りますと、いろいろな難題が出てきます。大阪は国際会議にそれほど適した都市ではなく、交通機関や街角の表示も外国語表記が少なく、海外からのお客さまは恐らく不自由されることもあるだろうと思われます。そのような時に、日本のロータリアンは、手を差し伸べてください。

5月22日の京都デーに来られた方々に、京都市内の23クラブのロータリアンが挙ってお世話くださることをうれしく存じています。

手を差し伸べることは、もてなしの心、相手を思う心がなければできません。

ポール・ハリスの言葉“慈愛・寛容・忍耐”の心や、ハーバート・テイラーが提唱した“4つのテスト”は、いずれも相手を心底から思う心を表しています。

そして、それはまた茶道の精神である「和・敬・清・寂」の心とも深く結びついているのです。

日本のロータリアンは、過去2回、東京で国際大会を開催し、大きな成果を挙げて来ましたが、今回の大阪大会の開催にも、多くの手を貸してくださいました。

今回の大会を通して、日本のロータリアンとりわけ関西4地区のホストの皆さんが、ロータリーの奉仕の精神の実践の場として、大会で多くの人たちに“Lend a Hand”して下さることを願っています。

5月22日～26日、京都デー会場・大阪ドーム・大阪国際会議場・リーガロイヤルホテル等で皆さんと共に、にこやかに世界の友を迎えることを楽しみにしています。

共に心を合わせて大会を盛り上げましょう。



手を貸そう

RI元理事

小谷 隆一 (京都RC)

今年度のRI会長は、創立以来初めてアフリカ大陸から選ばれました。

私は数年前からジョナサン・B・マジリアベ会長とは親交を重ねておりましたので、特に関心をもって会長方針などについて注目を致していました。

またこの年度の世界大会は、大阪を中心として京阪神の4地区がスポンサーとなって行われます。私達もあらゆる観点からより良いロータリー活動をめざして努力するようにしております。

会長方針である「手を貸そう」は時機に適したテーマであり、私達は真心をこめて世界平和のために尽力しなければならないと考えております。一人ひとりのロータリアンがそれぞれの立場から奉仕活動に専念している姿を見て大変心強く思っています。

時あたかもロータリー活動が開始されて100年の年月を歩んで参りました。私達は一つの区切りである年を迎えて、今日まで先輩の方々が歩んでこられた道を、よりいっそう価値ある歴史として振り返ることが出来るよう、新しい活動を行っていかねばならないと思います。

今年度の福井ガバナーは、京都の南部地区のご出身であり、初期においては色々と戸惑いを感じられることがあったと思いますが、私達の予想以上に力強く活動を展開していただいております。そして選ばれたガバナー補佐も真摯に勉強に務められ、地区ガバナーに支援の手を差しのべておられ、また活動し易い

ように務めておられる姿を拝見し、ガバナー補佐として責任を果たしておられることを実感しております。

我々の2650地区も一段と力強い歩みを展開し、ますます盛り上がった奉仕活動を目の当たりに見て感激を致しております。

これからの更なる飛躍を目指して、ご健闘をお祈り致しております。



「手を貸そう」に想う

パストガバナー
堀場 雅夫 (京都RC)

当時は日本でも数校しかなかった7年制の高等学校(中学4年間と高等学校3年間)である甲南高校の高等科に進級したのが、昭和16年太平洋戦争の始まった年のことである。同じ校舎でもあるし、先生も日頃から見る顔であり、一般の学生がし烈な入学試験競争に打ち勝って高校に入学そた感激や喜びに比べると大変に人生が変わったとは実感がなかったように思う。

それよりもはるかに大きなインパクトは、米英相手に戦争が始まったことであった。しかし甲南高校の創立者平生鈇三郎氏の教育方針は徹底的に紳士道を学ぶことであり、戦時中といえども少しも変わることはなかった。たとえば学生ズボンの折り目が正しくついていないと注意され、中学では他人の世話は充分できなくても高校生になれば人助けをするのが当然であり、“noblesse oblige”の精神を持たない人は高校にいる資格は無いという考え方であった。ロータリーに入会させてもらってからこの考えは続いている。

まさに「Lend a Hand」は愛の手をさしのべる、困っている人、愛を求めている人、弱い人々に少しでも力になってあげることである。その精神のベースにはロータリーのモットーである“*He Profits Most Who Serves Best*”がある。「情けは人のためならず」は洋の東西を問わずの真理である。

神は人間に道德・倫理・愛そしてあわれみの心を与えると同時に五欲を与え、しかも別々のところでコントロールするようなシステム

をつくった。人間苦の大部分はこの2つの機能のバランスコントロールである。バランスに大変な精神的エネルギーが消費される。その為に多くの宗教が存在しているが、いずれも期待される機能を発揮していない。私の知る限りこれに挑戦しこの苦に立ち向かう勇気を与えてくれる唯一の組織としてのロータリーに期待している。



実践編・手を貸そう

パストガバナー
財津 晃 (長浜RC)

1998年2月3～13日以来、2回目のWCS
ラオス・ミッションに行き参りました。

2004年2月16日、タイ国Ubon Ratchathani
からラオス人民民主共和国のVantaoに入りました。
その国境線なるもの、鉄製の梯子を横
にして半分埋めたようなもので、笑ってしま
いました。前回のラオス入国は直接Vientiane
に入り、一括フリー・パスのVIP扱い、歓迎
横断幕つき記念写真撮影がありました。今
回は並扱いで、国境線通過に2時間かかりま
した。

11:30 Campasak州Pakseに着。12:40ま
で保健省で免疫活動のスライドによる念入り
な説示がありましたが、日本との比較も出来ず、
失礼ながら努力の跡があるとしか申し上げよ
うがありませんでした。

昼食後、Khonphaphengの瀧まで約2時間南下。
全体に貧しげな高床住宅の疎らな村落が続き、
話にきく焼畑のため土地を焼いたあとがいた
る所にみられ、巨大なダムが存在もこの国の
農業に繋がっていない感じです。

2月17日、今回Laos Missinの主な仕事の
Vaccin投与が行われ、沢山な村童に、例によ
って賑やかな仕事が繰り広げられました。それ
へのお礼心の顕れとして伝統の「パーシ」がず
っと簡略な形で挙行されました。

2月19日、前回に校舎1棟を寄贈した南チョ
ンマニ村小学校を訪問し、文具を贈呈しました。
教室にはビッシリと子供が溢れ、この分では
もう1棟校舎が必要になりそうな勢い。付近
も昔の村が町に変貌し、道路も良くなってい

るようでした。

2月20日、Lao Plaza Hotelで、日本大使、
ラオス国保健大臣の臨席を得て、この国で初
めての「母子手帳」贈呈に関連して調印、現
品贈呈式が挙行されました。ラオス国の将来
の健康増進に飛躍的に寄与するものと考えます。

観光について、前回に行かなかったコーン
の瀧に行けたのは幸いでした。我が文才では
あの素晴らしさを表現できないし、我が写真
術ではあの瀧を卑小化したに留まりました。
Mekong川の朝日、夕陽と共に、いつまでも記
憶に残ると思います。いくつかの仏教遺跡は
何時もながら我が理解の外にありました。



手を貸そう

パストガバナー
増田房二(京都山科RC)

マジリアベ会長は、世界人口の5分の1は貧困と飢餓のどん底に喘いでいるから、これを救わなければ世界は平和になれない。それ故、真正面から貧困の克服に手を貸して欲しいと訴えております。然しながら、仮に莫大な予算をもってしても、どれ程の期間を見込めば貧困者を半減できるのか見当がつかないと世界銀行は試算しています。それ故、この絶望的な貧困を緩和する為にする直接手段は、ロータリーの奉仕には馴染まないと言わざるを得ません。今や国際ロータリーの悲願となっているポリオ撲滅が達成できれば、年間少なくとも15億\$は節約できると見込まれていますが、まだ7カ国でポリオが発症している有様で、更に8千万\$程注ぐ必要があるとのこと。この点では当地区は、資金の面でも人的実践の面でも我が国の指導的立場にありますから、先ずその期待に沿い責任を果たすことが、マジリアベ会長の要請に応える現実的な道でありましょう。

更に当地区は、カンボジアの膨大な数の地雷や不発弾の除去に援助の手を差しのべる国際事業特別委員会を立ち上げて、劣悪な生活環境に苦しむ同国の貧困緩和に貢献しようとしております。

しかしマジリアベ会長は、「私達には先進国として途上国援助という崇高な使命があるが、ロータリーの活動はクラブが基本であり、ロータリアンの手の届く地元地域社会で、クラブのプロジェクトに直接参加して、自分の足を使い、自分の手を貸して行う奉仕活動こそロー

タリーの奉仕である。それによって奉仕の感動が生まれ、奉仕の喜びや満足感が生まれ、奉仕を通じての親睦も生まれると思う。」と念を押しています。この意味において、当地区で今年度17のクラブから提出された意義ある業績賞申請事業や、5クラブから提出されたガバナー賞申請事業等は、僅かな評価差による入選の有無にかかわらず、何れもマジリアベ会長の期待に応じて手を貸すに値する恰好の事例であろうと思います。

カンボジア王国支援協力金の募金について

私たちが支援しているカンボジア地雷除去センターとは？
CAMBODIAN MINE ACTION CENTER (CMAC) 及び
国際事業特別委員会の今回の奉仕活動について

第2650地区 ガバナー 福井正典
国際事業特別委員会 委員長 山崎時雄
国際事業特別委員会 副委員長 大日方弘明



過去30年ほどにわたる国境内外の様々な紛争により、国外から持ち込まれた600万個の地雷と大量の不発弾のため、カンボジア王国は世界最悪の地雷／不発弾汚染国の一つとなった。地雷／不発弾による事故は2001年の統計を見ると、死傷者数は900人近くを数え、カンボジア王国は世界最高の地雷／不発弾による民間死傷者数を記録した。その内、約27%が女性や子供であるが、子供の犠牲者の85%は病院に運ばれる前に死亡しているといわれ、実際の割合は統計数字をはるかにしのぐと推測される。また、成人においても、単独行動中に事故にあった民間人は、誰にも看取られず、一人事故の現場で息を引き取るケースがあり、この数も決して少なくない。従って、統計に表れてこない被害者もあり被害者の総数はもっと多いと推測される。

この惨禍を防ぐため、1992年カンボジア政府とUNTAC(国連カンボジア暫定統治機構)により設立された国家組織がCMACである。

○ 隊員は凡そ2,400人

○ CMACの中心となる活動およびチーム

1. 地雷回避教育
2. 地雷／不発弾調査および情報収集
3. 地雷／不発弾除去
4. 訓練センター

○ CMACの使命

継続的国家地雷活動団体として、地雷を除去することにより、死傷者数を減少させる。また、住宅、農業、社会基盤に利用できる安全な土地を提供することにより国家開発目標である貧困救済を支援する。

○ 国際事業特別委員会が実行した今回の活動

2月21日～25日、4泊5日の日程でカンボジア・プノンペン・CMAC本部において、日本大使館・地神一美参事官立会いのもとに、SIGNING AGREEMENT;MOUを行い、CMACに地雷回避教育資料制作費を贈呈した。

- ・ 製作資料内容：1. 地雷回避教育ビデオ 2本
- 2. 複製ビデオテープ 80本
- 3. 地雷回避教育Tシャツ 10,000枚

以上の資料はカンボジアで製作される。

・ 期待される成果：地雷回避ビデオを見たり、地雷の危険性を表現したTシャツを目にすることにより、住民は以下のことを心がけ、危険行為をしなくなる。

1. 地雷／不発弾に触らない
2. 地雷／不発弾をいじらない
3. 地雷や不発弾の発見の際には適切な所へ報告する

・ 贈呈金額：総額 25,080US\$

・ 私たちがカンボジア王国で行う人道的奉仕活動の意義

第一に：カンボジアをアジアの最貧国に陥れている大きな原因は地雷／不発弾であるといわれる。私たちはその除去運動を支援するため、1992年から地雷／不発弾除去作業に従事しているCMACの援助を取り上げた。

この活動はロータリー財団が1977～1978年度に創設した3-Hプログラムに通じる奉仕と理解している。

第二に：1974年WHOとUNICEFの共同事業として始まった予防接種拡大計画・Expanded Programme on Immunization(EPI)を支援するため、WHO/WPROがカンボジアで継続している、「拡大する予防接種プログラム」への援助を取り上げた。

この活動は1985年に始まったポリオ・プラス活動と同義と理解している。

さて、地雷／不発弾の存在は農業生産へ大打撃を与え、インフラを破壊した。母なる大地からの自由な恵みを受けられないカンボジアでは、いまだに帰還できない地雷難民があり、また、多くの住民が自国内の移動を余儀なくされ、いわゆる国内避難民となっている。この地雷除去には百年以上を要するといわれる。しかもこの悲劇は、カンボジアが自ら製造したことのない地雷による「もちこまれた悲劇」である。しかし、健気にもカンボジア人は懸命の除去作業を続けている。何とか「力」(Lend a Hand)になってやりたい。

もちろん、私たち一人ひとりの「力」はあまりにも小さい、だが、地雷／不発弾問題を解決できるのも、紛れもない私たち一人ひとりの「力」である。

一人でも多くの人が、アジアの不幸な国カンボジアに、善意の手を差し伸べることを心から願っている。

■国際事業特別委員会からのお願い

カンボジア王国支援協力金に募金頂きありがとうございます。今後なお一層ご協力賜りますようお願い申し上げます。

近江八幡ロータリー社会奉仕共同隊設立！！

近江八幡ロータリークラブ 会長 中田 全 一



近江八幡ロータリークラブは、国際ロータリー加盟会員として、ロータリーの綱領に則り、奉仕の理想実現のため、会員各自の職業を通じての社会奉仕はもちろんのこと、ロータリアンとしての個人生活、事業生活、社会生活すべてに奉仕の理想を適用することを誇りとして、実践の実をあげるべく日々努力を怠ってはならないことは申すまでもありません。21世紀は、環境の世紀とも言われ、宇宙船地球村の環境保全、自然共生は、共存共栄に絶対不可欠であります。暮らしを営む周りには、修復不可能な自然破壊や、大規模な環境破壊が止むことなく進んでいます。

今こそ、環境保全に立ち上がらねばなりません。

当クラブは今日まで、八幡堀の修景保全、近江八幡・安土水郷地帯の環境保全、津田内湖再生運動、歴史的まちなみ保全等々、環境問題に取り組んで来ましたが、此度近江八幡・安土水郷地帯の中にある北之庄沢の環境保全に、積極的に取り組みをしておられる「北之庄沢を守る会」(会長：西野 平)と協議を重ね

た結果、北之庄沢を守っていくことは、近江八幡・安土水郷地帯を保全することであり、北之庄沢へ流入する八幡堀の水質保全も関係することや、下流域にある津田干拓を内湖化することにより、琵琶湖へ注ぐ水質の浄化機能を高める等々、より広範な環境保全運動をすることを目的に、近江八幡ロータリークラブの後援と指導のもと、第2650地区でははじめて『近江八幡ロータリー社会奉仕共同隊』を結成し、2月18日(水)に設立総会を開催いたしました。

ロータリアンではないが、ロータリー精神を正しく理解した地域社会奉仕活動団体との共同隊設立は、地域というフィールドで地域社会奉仕の新たな試みとして、地域の期待を担うものであると確信し、実践の実をあげたいものであります。

ラオスミッションを終えて

2003-2004年度 地区世界社会奉仕委員会
委員長 前田 正一郎 (奈良RC)



今年は地区世界社会奉仕委員会として、ラオス国支援を計画いたしました。“なぜラオスなのか”、1つは2年間にわたっている昨年のカンボジア支援のサポートと昨年の地雷BOXによる募金活動の資金があり、この部分の活動が残っているので、隣の国なら出来るということです。結局この部分は事業と資金を国際事業特別委員会に引き継いでいただくことになりました。もう1つは7年前、ラオスを支援した時に、私の受けた印象が強く残っていることと、その時協力してくれた東海大学教授の園江満氏とのその後の交流や、ラオスのラオトヨタの社長ビラチット氏との出会いです。ビラチット氏は7年前の我々のロータリー活動に感銘を受け、自費でラオスの山岳地帯に学校を何ヶ所か寄贈しました。その後ラオスの経済界や要職の人々と共に、ラオス教育振興財団を結成されました。私はRID2650WCSとして、もう一度支援をし、訪問したかったのです。長年私は地区世界社会奉仕に係わってきて、我々の奉仕活動は教育関連と医療関連において他にないと思います。

皆様方から預かったお金であるので、出来るだけ有効に使われることであると同時に、我々のロータリー

活動を現地の人々に伝える必要があります。特に公的な人々に知ってもらうことは重要な要素であります。そして我々も国のこと、その国の人々を良く知り理解することが大切であります。

今年は50名の募集に対し47名の参加を得たのですが、8割の人々がWCSミッションのリピーターでした。毎年60名前後のロータリーメンバーが自費で参加してミッションに行くことは、委員長として大きな責任を感じるようになります。ラオスという国はアジアのインドシナ半島で海のない国です。日本の本州程の大きさに、約530万人の人々が、ゆったりと悠久の時を過ごす美しい国です。しかし山岳地帯が大部分で、林業や農業以外に産業はなく、都市部以外は道路や電気、通信、教育、医療等のインフラがほとんど未整備で、小さな貧しい国であります。

ラオス保健省を通じて、ポリオワクチン投与をはじめ安全免疫活動を支援したのですが、ワクチンはその病気から生涯逃れることが出来るすばらしい奉仕であります。もう1つはラオス教育振興財団を通じて、母子手帳を新しく作り直して配布する印刷の費用を支援しました。母子の健康の記録が、母子手帳に記入されることは、ラオスの子供達の健康に大いに役に立つこととなります。このプロジェクトには大阪大学大学院の中村安秀教授がサポートされており、母子手帳の表紙にロータリーマークとRID2650が印刷されました。又7年前に寄贈した小学校を再訪したことは、校長先生をはじめ、子供達に新たな印象を与えたことでしょう。

最後に首都ヴィエンチャンのホテルでは、ダラロイ保健大臣、副大臣をはじめ保健省の方々、橋本日本国大使、公使をはじめ、関係各位約50名の来賓列席の前で、我々のラオス支援の調印式と母子手帳の贈呈式は、今回の最も大きな舞台でありました。そしてロータリアンと御来賓の全員の友好親善パーティーが無事終わることが出来ましたことは、皆様方の御協力の賜物と感謝いたしております。

財団補助金報告：福井フェニックスロータリークラブ



会長 松原 六郎



1. プロジェクト内容

①主旨：夏休み中の高校生の薬物（シンナー・覚せい剤）使用を防ぐため、「シンナー等覚せい剤防止のチラシ」を県下全高校へ配布。

②実施期間：2003年6月10日～7月10日

③社会に貢献できた点：現在、インターネット等による大量の情報により、薬物の入手が以前より容易になった。また、ダイエットの薬などというように覚せい剤を売るケースもある。夏休みは生徒達にとってももっとも解放的な時で、自由になる時間も多いため薬物に接する確率が高くなる。そのために、夏休み前にチラシを配布し、生徒達に正しい知識と薬物の危険性を認識してもらった。

④ロータリアンの実際の活動内容：自作でチラシ原稿をつくり、各会員が手分けして高校に配布した。

2. 交付金額 2,000 ドル

財団補助金報告：福井西ロータリークラブ



創立 25 周年記念事業「地域社会に手を貸そう」

社会奉仕委員長 藤野 拓三

福井西ロータリークラブ創立 25 周年を迎え、地域の皆様に感謝し、記念事業として「地域社会に手を貸そう」をテーマに支援事業を企画しました。

支援先は、4 年ほど前に障害者をもつ親達が集まり、ボランティアで立ち上げた施設で国の支援もほとんどなく、僅かな寄付とボランティアで大変苦勞して運営をしていました障害者通所施設「げんきの家」に決定し、不足している備品（パソコン、ミシン、ユニホーム、テント等）を贈り、身障者の皆さんが技術や操作を修得し、身障者の更正に役立てて頂く。

活動を通して私達健全者は、障害者の皆さんから、自分の環境を素直に受けとめ、一生懸命に生きている清らかな「心の健康」を学び、大変感動しました。

そして 21 世紀は、高度経済成長と共に失われた「環境、人権、心」を取り戻す為の活動が必要である事を、改めて教えられた支援活動となりました。

今回の支援事業は、国際ロータリー財団より活動資金の一部として、4,000 ドルの補助金を頂き、大変充実した記念事業となりました事、すべてのロータリアンの皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

追伸：先般、この施設は今日まで多くの人達の支援活動が認められ、「社会福祉法人 げんきの家」として、認可を受け一人立ち致しました事をご報告させていただきます。

財団補助金報告：敦賀西ロータリークラブ



会長 高橋 淳
社会奉仕委員長 佐飛 彰



1. プロジェクト内容

21世紀は環境、人権、創造の時代といわれている。とりわけ経済成長と共に失われていった自然と環境を取り戻し、人々は本当に心のゆとり、心の温かさを感じて生活できるようなよりよい町づくり、実のある社会づくりが必要である。

こうした考えに基づき自然と環境の保全について地域社会と共に考えロータリアンとしての社会奉仕活動を行うとの立場から、平成15年10月26日「NPO21世紀みはま環境ネット」の人々と協働し、ヒマラヤ桜50本を新設の国道(国道27号線東美浜バイパス)の南側斜面(延長350m)に植樹した。

環境浄化木として知られるヒマラヤ桜は二酸化炭素や二酸化窒素等の温室効果ガスの吸収同化能力が優れており、このようなヒマラヤ桜の植樹は車の排気ガスを軽減するといった意味で自然と環境を考える手立てとなり、植樹を通じて次代を担う子供達や地域社会の人々に自然と環境の保全の大切さを啓蒙できたと思われる。

2. 交付金額 米貨 2,000ドル

財団補助金報告：彦根ロータリークラブ



会長 北村 昌造



1. 地区補助金を活用して「ふれあいの集い」を実施

①主旨：体に障害を持つ人々との交流を図り、障害者に対する健常者の偏見をなくし、障害を持つ人々に勇気と希望を与えることを目標にしました。

②実施期間：準備・打ち合わせ(行政機関などと)3月～(予算や行政の年間計画との摺り合わせのため)また補助金申請が前年事業年度(6月まで)に締め切られるため、新年度がはじまる前から計画策定を行いました。行事実行日は12月7日

③全盲のオルガニスト 大島 彰氏を招いて、その才能とともに涙ぐましい努力によって得られた1万曲暗譜という超人的演奏を聴き、障害者も健常者もともに感動のひとときを過ごした。とくに障害者の方々はこのような演奏会に出席できたことに大変感激されていた。

④ロータリアンはポスターの配布や入場整理券の配布に全員が参加するとともに会場の設営に担当委員会(社会奉仕)以外の会員も自発的に多数参加して、奉仕と団結の喜びを味わった。

2. 交付金額 5,000ドル

財団補助金報告：近江八幡ロータリークラブ



「地区財団活動資金(D.D.F)を生かして 授産施設の仲間と共に」
会長 中田 全一

当クラブは、身体障害児が働く2つの授産施設(おうみ作業所・桐原まぶね共同作業所)と永年交流をいたしております。この度、D.D.F 資金米貨 3,000 ドルを活用して、下記の要望に応えることにいたしました。

①おうみ作業所では、現在空き缶圧縮作業を手作業で行っており、非常に効率が悪いので、電動空き缶圧縮機を要望しておられた。
②桐原まぶね作業所には、作業後の休憩時における娯楽機器がなく、大型テレビとビデオセットが欲しいと要望しておられたことから、更なる更なる交流を深めることと、要望をタイムリーに満たすことに意義ありとして、贈呈することを決め、クラブ事業として取り組みました。

9月10日(水)午後より、琵琶湖岸の岡山園地でロータリーメンバーとおうみ作業所の仲間達とが一緒に空き缶拾いを行い、その拾った空き缶をおうみ作業所に運び、機器の贈呈を行った後、試運転を行いました。手早く圧縮された空き缶のスマートさに見入ったものでした。働く仲間の代表の感謝のメッセージは、心のこもった素晴らしい言葉でした。短いひとときでしたが、楽しい懇談の場を心残りにお別れしました。

桐原まぶね作業所には、10月1日(水)午後慰問に伺い、大型テレビとビデオセットを贈呈し、しばし交流懇談の場をもちました。その後も、山下清原画展への無料招待等交流を続けております。



財団補助金報告：野洲ロータリークラブ



「野洲町文化ホール前 時計台新設」 会長 酒井 勝宏

私達、野洲ロータリークラブの所在地域は、野洲町・中主町両町の全域と致しておりますが、この両町がこの度合併が決まり、平成16年10月1日より、新市「野洲市」が誕生することになりました。新市の将来都市像に「豊かな自然と歴史に彩られ 人々が奏でる

ほほえみ・ときめきのまち」を掲げ、まちづくりの基本目標、主要施策が決められています。こうした中、当クラブが今回実施した地区補助金を活用した野洲町文化ホール前時計台新設については、市民と行政の協働がつくるまちづくりの一環として、コミュニティ活動の支援の一助となりました。野洲町文化ホール並びに中央公民館合わせて、昨年年間利用客は、108,900人に達し、尚かつ、保育園児から一般市民の多くの人々が行き交う中、目に留まる我々ロータリークラブの看板が時計台と共に、地域社会への貢献への証として認められるものと確信致しております。

本件、贈呈式の折には、地元野洲町長 山崎甚右衛門様、野洲町教育長 大堀義治様を始め、多くの行政側関係者のご出席を賜り、ロータリー関係では、社会奉仕委員長始め多数の会員が参加する中、山崎町長から感謝のお言葉をいただき、併せて感謝状を受納致しました。

今回は、3,000ドルの地区補助金を活用させていただきましたが、今後は新市「野洲市」として、新たな社会的ニーズが出てくる中、野洲ロータリークラブとして、独自の観点で、新たな対応と選択に迫られることになって参ります。その為には、当クラブがより一層の体質の強化と「奉仕の理想」を鼓吹していかなければならないと思っております。



財団補助金報告：京都モーニングロータリークラブ



「地区補助金交付の感動と喜び 心身障害者センター、タンポポハウス支援事業」

会長 田中 和朗

1. 心の病を持った 20 名の人達が作業所で野菜の栽培やハーブティ、ハーブキャンドルの生産を行い、また地域コミュニティーセンター境谷会館の清掃作業請負をしています。01～02 年度鈴木社会奉仕委員長が視察のおり何の設備もなく、殺風景な作業所を見、驚きと不憫さで何とか協力出来ないかとのこと、02 年故人となられた鈴木会員の意志をついでコピー機、テーブル、イス等を寄贈したのが支援活動の始まりです。03 年度の活動として地区補助金申請後、決定をいただきタンポポハウスの事業所長と面談結果障害者が社会復帰に必要な備品類を決定し、整理戸棚、大型紙芝居セットを会員の手作りで作成、その他マイクセット、デジタルカメラを会員の協力により格安で揃えることが出来ました。すべてに上手く運んだ事はロータリーのカリスマ性を感じずにはおれません。



- 2.03 年 3 月下旬ロータリー財団地区補助金申込
- 03 年 5 月クラブにて検討しタンポポハウス事業所に対する支援を決定。
- 03 年 7 月事業所へ会長、正副社会奉仕委員長打ち合わせ訪問。
- 03 年 9 月地区補助金交付決定通知受け。
- 03 年 11 月寄贈品一式を会長以下数名にて持参し贈呈を行う。

3. 心に病を持つ人達が 1 日でも早く社会復帰をされるよう心から願い、心を癒す情操的な物が補助金により寄贈出来たことは会員一同の喜びであり地域の方々の共同でなせた事に感謝しております。



4. 交付金額	2,500 \$	210,000 円
クラブ補助金	658 \$	58,000 円

財団補助金報告：京都西山ロータリークラブ



会長 中野 種樹



1. プロジェクト内容

* 主旨

地域住民の生命財産を守るため日夜献身的に活動していただいている警察と消防に対し何らかのお手伝いが出来ればとの主旨による。

* 実施期間及び社会に貢献できた点

・2003 年 7 月 10 日、向日町警察署に対し 100cc のバイク 4 台寄贈。管内のパトロール、本署と交番の連絡用などに使用され、地域の防犯に役立っている。

・2003 年 7 月 31 日、乙訓消防組合に対しスピーカー付き広報車 1 台と、データプロジェクター 1 台を寄贈。

これまで使われていた広報車が老朽化のため、早速立ち入り検査とか防火啓蒙活動などに活用されている。また、データプロジェクターは研修会や地域住民への広報活動に使われている

* 地区補助金交付額 5,000 ドルを受け、費用の一部とした。





齋藤 信二会員

ロータリーと私

福井ロータリークラブ 齋藤 信二

福井ロータリークラブに入会して半年近くが過ぎようとしています。ロータリーの印象として、定款・細則・諸規定等がかなり厳格に定められており、それを見るだけでも、歴史の重みを十分に感じることができると共に、新入会員にとっては、ロータリー用語を理解すること、例会への出席に対するプレッシャーを大きく感じるものでした。でも、例会に参加することで多くの皆さんから温かいご指導をいただくと共に、多くの情報を提供していただき、本当に有意義なロータリーライフを過ごさせていただいております。

人生とは出会いと発見の連続です。この出会い、親睦と奉仕活動の輪に仲間入りし、楽しく意義のある活動を実施したいものです。

ロータリーと今後どのように付き合っていけばよいのかを考えれば、何の取り柄も無い私自身、ロータリーという高等な環境下に携わっているだけで知らぬ間に多くの知識を吸収し、自分が磨かれているようで、まさに「門前の小僧習わぬ経を読む」といった心境です。自分自身を有意義で価値のある人間に仕立てていくことを目的にした場合、ロータリーとは本当に素晴らしい団体であると思います。

今後は、一つでも多くの事業に参加し、ロータリーを通しての出会いを大切に、先輩方との友好関係を築き上げていければ幸いです。そして、奉仕の理想を十分理解し、四つのテストに基づいた行動ができるようなロータリアンを目指して頑張ってまいります。



小森 富夫会員

ロータリーと私

福井ロータリークラブ 小森 富夫

私は昨年12月に、佐々木幹事より、どうしてもハワイとの姉妹締結に会員拡大が必要なのでの要請の元、福井ロータリークラブに入会させていただきました。

私のロータリーのイメージは、ボランティア団体で社会奉仕を中心に活動しているお年寄りの集まりというものでした。(大変失礼なことを申し上げます。)私は、27才の時に青年会議所に入会し、自分なりに一生懸命自分を磨き、経済界で活躍をしている先輩達に一歩でも近づきたいと頑張ってきました。青年会議所を卒業した後も、あちこちのクラブからお誘いがありましたが、まだまだ自分自身に余裕がないので、社会の奉仕活動など出来ませんと断り続けて来ました。…が、50才になる前にお声掛けいただき、自分ももう少し社会に還元しなければならない、奉仕の精神を持たなければならないなど感じ入会させていただきました。

まだ12月に入会して以来、3回しか出席出来ない不良会員ですが、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。この前、ハワイの姉妹締結に参加させていただいた時、ロータリーとは憩いの場なんだと感じました。色々大変厳しい時期ですが、ストレス発散の場として大いに利用させていただきたいと思います。

まだタスキ掛けして例会受付で立っていなければならない事や、会員同士が手を取り合って歌を歌わなければならない事は、違和感を覚えますが、よろしくお願ひ致します。



伊井 彌州雄会員

啓発録とロータリー

福井ロータリークラブ 伊井 彌州雄

この数年、青少年の健全育成を審議する幾つかの会に参画して参りました。青少年の非行・犯罪の原因を探った結果、その議論のすべてで、虐待・ニグレクト・家庭での教育放棄・親や地域の規範意識の欠如といった大人のモラル低下の問題が焦点となりました。現代の大人は人生の指針を共有できていないという指摘であります。啓蒙活動の拠所として、「啓発録」の意義が福井で再び脚光を浴び始めています。

1834年、当ロータリーエリアに生まれた橋本左内は、若干15歳にして自らの生き方の指針たるべく、これを記したと云われています。稚心を捨て気を振るい、志を強く持って生きること、学ぶことと交友を選ぶことの大切さを若若しく、清冽に述べておられます。

不惑を機に、啓発録に照らして己を省みたとき、これまでの交友の選びかたの誤りに気付かされました。「選ぶ」まえに大切な「常に広げる」ための努力不足を思い知ったのです。そこで、尊敬申し上げる職業人の多くが所属される当ロータリークラブに入会を希望致しましたところ、幸いにも入会をお許しいただきました。最近、当ロータリークラブがハワイ・カボレイRCと友好協定を結んだこともあり、日本全国のみならず世界に通じる交友と勉学の道しるべを得たことを実感し、大変嬉しく思っております。

ここからは、私の「振気」次第です。多くの方に「選んで」頂けるよう努力する所存でございます。より一層のご交誼とご指導を心よりお願い申し上げます。



時澤 豊明会員

自分自身に戒めをもって

福井ロータリークラブ 時澤 豊明

平成15年11月に福井ロータリークラブに入会させて頂きました、時澤です。友人より入会する1年以上前から当クラブへさそわれていましたが、なかなか決心がつかずに時間が流れていってしまいました。

初めはクラブの行事にとまどうことばかりでしたが、少しずつ慣れてまいりました。

毎週の例会で、ロータリーソングを歌いますが、この事が自分への戒めとなってきた気がします。自分自身が心の弱い人間で楽なほうへ向かってしまうことがあります。私は今、高校のPTAの副会長をしていますが、自分の子供たちの事となると結局は妻にまかせてきていました。また、地区の行事でも数年前までは積極的に参加してまいりましたが、今は何かと自分自身に言い訳をつくって休むことが多くなっています。

四つのテストや奉仕の理想を歌いながら自分を見つめ、そして変えなくてはと気付く事が出来ました。完璧にすべての事をこなすのは無理ですが、少なくとも自分から逃避するのはやめようと決心しました。

今後もロータリークラブの先輩方のご指導を仰ぎながら、自分の価値を高めて生きたいと願っています。そしてロータリークラブを楽しんで生きたいです。



村中 昌弘会員

ロータリーと私

福井ロータリークラブ 村中 昌弘

本年2月、歴史と伝統ある福井ロータリークラブに入会させて頂きました。

入会前のインフォメーションでご提示いただいた基本資料や、毎回配布される情報資料等を確認し、緊張の中にも楽しく例会に参加させて頂き、崇高な「奉仕の理想」の基に、全世界で展開される活動の一員となったことに、JC時代とは違った責任感と緊張感を覚えています。

「綱領」や「四つのテスト」等々、企業人として社会人として忘れてはならない精神や、自らを律することの重要性を常に認識し、多くの方々との出会いを大切にする、有言実行型のロータリアンを目指したいと考えております。

ほんの少しロータリーの精神が理解できたまだまだ新米ですが、先輩諸兄のご指導をお願い申し上げます。



山本 宝会員

ロータリーと私

福井ロータリークラブ 山本 宝

ロータリーに入会させていただいて早半年になります。入会の際、講釈していただいたロータリー精神も余り分からないまま、近頃ようやく例会の雰囲気には馴染んできました。同時に、会員の方々から何かを学ぶ気持ちで週一回どうにか足も向くようになってきました。職業柄、昼夜を問わず病院業務に拘束されることが多く、なかなか思うように外に目を向けるにも限りがありますが、木曜日は休診日でもあり例会には比較的気楽に参加しています。特に、クリスマス会や何回かお聞きした宅話を通して会員

の方々“いま”の考えの一端を伺い知ることが出来て、大変興味深い時間を過ごさせていただいています。唯、福井を長く離れていたせいで思うのか福井をもっと知りたく、当初期待していた異業種の方たちとのふれ合いの場など家族も含めてもう少しあってもいいのでは…と思っています。ぜひロータリーならではの魅力あるプランをお願いしたいと思います。

取り敢えず、病院からの緊急の呼び出しが無いことを願いつつ、まずは春先からの「花見会」を筆頭に、恐れ多くも下手を充分認識しているにもかかわらず、ただゴルフ好きというだけで入れていただいた「友の輪会」のコンペや「ロータリー大阪国際大会」など、今だ分からないまままできているロータリー精神を学ぶためにも会の催しに積極的に出掛けて楽しんでみようと思っています。何なりとお声を掛けていただければ…と思っています。



奥村 繁子会員

ロータリーと私

福井東ロータリークラブ 奥村 繁子

早いもので、初めてお誘いを頂いてから1年近くが経とうとしています。初めは何度もお断りをしていましたが、皆様のご熱心なお勧めを断り切れなくなり、1年だけのつもりで入会させていただきました。

ところが、今の私には確りロータリーが定着してきました。例会のない週には何となく忘れ物をしているような気になります。そして、こんなに皆様に親切にさせていただきながら1年で辞めたいなどどうして思っていたのかと申し訳なく思っています。

でも福井東ロータリークラブには女性が2名しか入会していません。女性をお誘いしたいと思いますが、私を含めてもっと輝く女性が増え、男性会員様から入会を囑望される女性がどんどん増えるように、ご支援をよろしくお願いいたします。

青少年育成、環境美化、後進国支援等に対するロータリアンの取り組みにも深い感動を覚えています。しかし、現代の少子高齢社会の出現を受け、女性会員である私は特に少子化問題に大きな関心を持っています。なぜ女性が子供を産まないのか、子育てがどんなに大変なことであるか、どう支援すれば良いのか、民族の衰退に関わる大きな問題であると思います。是非ともロータリー活動の一端に取り上げて頂きたいと思います。場違いな提案のような気もしますが、子供は社会の大事な宝です。

すばらしいロータリー活動のお仲間に入れていただきましたことを感謝申し上げます。



高橋 徳一会員

ロータリーと私

福井東ロータリークラブ 高橋 徳一

私は転勤族のため、ひとつのクラブに永く在籍して活動することが出来ませんが、限られた期間であっても、その間は出来るだけ例会に出席して、地域で活躍されているロータリアンに接し、自分を磨こうと考えております。

ロータリークラブに最初に入会したのは、平成11年7月、伊万里ロータリークラブでした。転勤族である私は地域の方々と交友を深めるには地域で活動されている団体に入会させて頂くのが一番だと考えていたからです。地域で活動されている団体には、ロータリークラブとライオンズクラブがあり、その違いが判らないままロータリークラブに入会いたしました。

ロータリーに決めましたのは、例会が昼間にあることと、毎週開かれるので名前と顔が早く覚えられ、仲間意識ができ易いと判断したからです。

伊万里のクラブには半年間在籍しただけで、12年4月には徳島に転勤いたしました。

徳島でも3ヶ月のブランクのあと7月に徳島南ロータリークラブに入会させていただきました。親睦委員として、例会はもとより、親睦行事を通じて会員の方々とは交友を深めることが出来ました。

平成15年4月、福井に着任、7月に福井東ロータリークラブに入会させて頂き、9ヶ月経ちます。名前と顔が一致し、これから本格的に親睦を深め、ロータリー活動に励みたいと存じます。会員の皆さんよろしくようお願い申し上げます。



岸本 光史会員

ロータリーと私

彦根ロータリークラブ 岸本 光史

昨年の11月に伝統ある彦根ロータリークラブに入会させて頂きました。ロータリークラブについては、他界した父もお世話になっていましたが、毎週の例会に一生懸命出席していた事ぐらいで、詳しくは知りませんでした。初めての例会に出席したとき会長の点鐘から始まって、ロータリーソングの斉唱、ニコニコボックスや出席率の発表、卓話そして会長の点鐘で終わりました。初めてのことで面食らい、そしてこのような例会が毎週続くことが不安にも思いました。入会から4ヶ月ほど経ちましたが、もう明日が例会日といった感じで一週間が早く感じられます。諸先輩からは、リズムがつかめると苦にならないとアドバイスをいただきますが、まだまだ重荷に感じています。

新会員のオリエンテーションの時に、ロータリーは友好と奉仕を志す人々の世界的な団体で「奉仕の理想」を信条とし、それぞれの地域に奉仕活動を展開されている団体だとお聞きしました。以前在籍していた、青年会議所の理念とよく似た感じで受け止めさせて頂きました。現在は、親睦活動委員に所属しており、古参の親睦委員に色々教えて頂きながら、和気藹々と参加させて頂いております。まだまだ、若輩者で判らないことばかりですが、「ロータリーの柱」の一つずつ考えながら、活動していきたいと思えます。



中川 浩会員

ロータリーに学ぶ企業の社会的責任

彦根ロータリークラブ 中川 浩

平成15年11月に、伝統ある彦根ロータリークラブに入会を許され、戸惑いと緊張の間に早5ヶ月が過ぎようとしています。

ロータリーは「奉仕の理想」を信条に、各地域の各職業の善良な成人の代表として奉仕活動に努めなければならないとお教えいただき、現在の自分は「その人たるか？」と考えますと日々恥ずかしい限りであります。

ただ、地元彦根で職業の枠を超え多くの方と知己を深めさせて頂いており、人の和の広がり感謝をしております。

今、私が勤めます地域金融機関は、その存在意義を改めて問い直されている時期に入っています。

つまり、地域経済に与える影響を考え、早期に金融機関自身の健全性と収益性の向上を求められる一方で、地域経済の活性化を図るために、地域中小企業金融の再生に向けた積極的な取組も求められています。— 地域のことを一番よく知っていて、幅広いネットワークを誇る地域金融機関こそが、短期的視野でなく長期視野に立って「永続し得るビジネスを構築すべき」との社会的要請があり、地域・お客様と共存共栄できる企業活動＝CSR(企業の社会的責任)を追求することこそがその存在意義とも言われております。

地域金融機関としてのCSRを追求することが、ロータリーの求める企業道徳の向上・職業奉仕・社会奉仕に結びつくことを確信し、日々の行動を常に「四つのテスト」に照らしながら、多面的な地域貢献に今後も努めたいと考えております。



佐竹 隆会員

ロータリーと私

彦根ロータリークラブ 佐竹 隆

私が、彦根ロータリークラブに入会させて頂いたのは、平成15年11月です。この3月で入会して5ヶ月目になったばかりです。今の私が、ロータリーの事についてお話するには、あまりにもロータリーの事を知らな過ぎます。今、私が入会して実行しようとしているのは、とにかく例会に出席することです。入会したばかりのときに、私と同じ業界のロータリアンの方と、業界の会合でお会いしました。その方が、私の襟章を見て「佐竹君もロータリーに入っていたの」と話しかけられました。私も、その時までその方がロータリーに入っておられてことは、全然知りませんでした。私は、その方に「ロータリーはどうですか」と聞きますと、「例会に休まず出席出来ていることが、ロータリアンとして一番有難い事だと。何故なら、健康でないと続けられないし、会社の経営が順調でないと続けられないから」と仰いました。とにかく私もロータリーを知る為に、例会に出席し親睦活動委員として役目を果たし、出来る限りの活動に参加していきたいと思えます。ただ、新入会員の中で、私も含めてですが、ロータリーの会員であることに疑問を感じ初めて、例会の欠席が目立ち始めた新入会員が出てきた場合には、ロータリーの組織としてフォローして頂けると有難いと思えます。それでもなお、退会される場合は致し方無いと思えますが…。



深井 哲夫会員

ロータリーと私

福知山ロータリークラブ 深井 哲夫

平成15年7月、福知山郵便局長を拝命し、この4月で9ヶ月目の勤務となります。京都の勤務は初めて。福知山でひと冬を越しましたが、雪の歓迎には閉口したところです。というのは、毎日、郵便物を配達することを要する郵便局にとって、雪は交通の大敵だからです。そんな私の心配をよそに職員はむしろそんな悪天候の中を配達することに生き甲斐や誇りを感じているようです。ご承知のとおり、郵便局は平成15年4月から日本郵政公社になり、本当にお客さまに喜んでいただけるよう「真っ向サービス」に取り組んでいます。

私がロータリーに入会した動機は、地域になくってはならない地域に密着した郵便局にするため、地域の有力者と知り合いになり、郵便局のことを良く知ってもらいたいとの思いと、熱心な入会への働きかけからでした。先代の郵便局長はライオンズに加入していましたが、福知山郵便局として初めて私が、昨年の8月に入会させていただきました。まだ駆け出しで一日も早く慣れるよう努力していますが、名前と顔が一致しません。また、横文字が多く、一つひとつの持つ言葉の意味を勉強しているところです。仕事柄、例会が出張等と重なることが多く、「メーカー」に腐心しています。

これからも、四つのテストに念頭を置き、個人生活及び事業生活を通じ、奉仕に努めたいと思っていますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



井本 哲夫会員

ロータリーと私

福知山ロータリークラブ 井本 哲夫

縁あって昨年7月に入会させていただき、9ヶ月がたちました。

私が初めてロータリークラブと出会ったのは、今から7年前のことでした。当時、市の教育委員会に勤務しておりました関係で、ある会員様から、「我々の会合で、今の子ども達の現状について、30分間何か話してくれないか」という話があり、寄せていただきました。当時は、もちろん会員でもなく、ただ30分間話をすればよいという軽い気持ちで出席したことをおぼえております。

このことは、『楽しみながら修練を積む』道場を提供する一つとしての毎週の例会に、ゲストとして招かれていたのだなということが、今になって分かりました。

現在、毎週の例会に出席し、種々の分野の方々からのスピーチを聴き、多くの方々とのコミュニケーションを図り、まさしくロータリーは単なる社交クラブではなく、紳士の修養道場であることが理解できました。

「綱領」や「四つのテスト」を見たとき、とりわけあの簡単な文言の四つのテスト、今までの自分の職業遂行に当てはめて振り返ると、胸を張れるか恥ずかしい思いがいたします。

今後は、奉仕の理想を忘れることなく、「四つのテスト」に照らして行動をしていかねばと思っております。

「井の中の蛙」であった私に、入会の機会を与えていただいたことに感謝しております。



濱上 雅子会員

ロータリーと私

京都伏見ロータリークラブ 濱上 雅子

私共のような者がロータリークラブのお誘いをいただき、分不相応ではございますが、縁あって入会させていただくことになりました。ありがとうございます。

ロータリークラブに入会させていただいての感想は、例会の1時間があっという間に経ち、会員の皆様との交流は例会ではなかなか図れないなあ、という感想を持ちました。例会のギリギリに到着し、すぐに失礼するのでそう思うのかもしれませんが、もっともっと皆様と親しく交流を深めさせていただくには、どのようにさせていただいたらよいのでしょうか。うわべだけのお付き合いではなく、心と心のふれあいをロータリークラブの中でもっと感じたいなあと思っております。

またメーキャップに伺った時の印象を述べさせていただきます。まだ女性会員が少ないこともあり、皆様に免疫がついていないのかもしれませんが、とてもよそよそしく感じます。他の会などでは、初めて参加した者をとて暖かく受け入れてもらえて、どんどんお話をしてくださいます。ロータリークラブで活動していこうという女性は、男性と同じ考え方をしている(もしかすると男性よりも男性ばいかも)と是非ご理解いただき、皆様のお仲間に入らせていただければ幸いですようによりしくお願い致します。



蓮尾 拓也会員

京都伏見ロータリークラブに入会させていただいて

京都伏見ロータリークラブ 蓮尾 拓也

京都伏見ロータリークラブに今年度より入会させて頂きました事を心より感謝致しております。又、入会に当りお世話を頂きました武田先生、海野会長、野村さん、土田さん、布施さんにもこの書面を持って改めて感謝を申し上げさせて頂きます。入会させて頂きまして、あつという間に3ヶ月が過ぎました。少し会の雰囲気にも慣れてきたかなという心境です。現在の思いと致しましては色々な先輩方々にお声をかけて頂いたり、野球部にも入会させて頂いたり、ゴルフのお誘いや食事会のお誘いも頂いたりして、友好の厚さを感じますし、又私より人生の先輩の方が多く、学ばさせて頂く事が多くあります。例えば時間に対する意識であったり、例会の出席率の高さや協力的な対応など、又何十年間も休む事なく例会に参加し続けている事など経営者として、又人間としての一番基本的な事が出来ているのが大変勉強になりますし、これがロータリークラブの凄い所なのかと思っております。私みたいな若輩者はまだまだ仕事で汗を流し、一生懸命に経営者としての責務を果たさなければいけない立場ですが、先輩方々のように時間を作りロータリー活動を通して経営者としてのスキルアップと人格を磨き上げていきたいと思っております。現在の私は、ロータリーに対しての要望や意見などは、正直言って何にもありません。ただただ時間を作り、出来る限り例会等の参加をする事が現在の目標であります。この先又、色々な事が見えたりする事もあると思っておりますが、自分自身の成長の場としてロータリークラブを活用させて頂きます。まだまだ何にも分かっておりませんので、先輩方々にご指導の程お願い申し上げる次第で御座います。今後ともよろしくお願い致します。



兼元 秀和会員

ロータリーと私

京都伏見ロータリークラブ 兼元 秀和

平成16年3月5日、京都伏見ロータリークラブに入会させていただきました。高校や大学の同級生や先輩に後押しされて、入会する決心を致しました。自分自身や会社のこともまだまだ満足に出来ていないのにロータリークラブに入会して大丈夫なのかという疑問が今まで入会を躊躇させていた大きな理由です。人に喜んでいただく、そして人に感謝される仕事をしたいという思いが、ここ数年徐々に芽生えてきている自分を感じていた事も事実ですが、目先の利益を追求するために行動するのではなく、社会のお役に立ちたいという気持ちや感謝の気持ち、そして志というものが、自分自身を動かす大きな原動力になっていることに気が始めていました。

現在の仕事があってこそロータリークラブに所属できるのですが、仕事をする中でロータリアンの理念や精神を学び、仕事に人間関係等に反映させていく事が出来れば本望であります。仕事とロータリークラブ活動との両立は難しい事ではありますが、一生懸命頑張っ参りますので宜しくご指導頂きます様お願い申し上げます。

最後に今回の入会に際し、多くの方々にお声を掛けていただき有り難うございました。特に武田敏夫様、三上敦様、竹中清二様、そして新井博二様、衷心より感謝申し上げます。



根岸 良子会員

ロータリーと私

京都伏見ロータリークラブ 根岸 良子

1月に入会して早3ヶ月がたとうとしています。これまで、いくつかのロータリークラブで講話をさせていただいたことはございますが、私自身が会員にお誘いいただくことは、夢にも思っておりませんでした。入会にあたり最も心配だったのは、毎週1回出席できるかどうか、ということでした。現在メーカーも含め、なんとかこなしております。実際にやってみると、毎週1回というのは、結構生活のリズムになるものだな、と感じております。皆様がとってご親切にしてくださるので、今は何の心配もなく、毎回楽しく出席させていただいております。

入会してみて驚いたのは、ホームといいメーカー先のクラブといい、結構存じ上げている方がいらっしゃる事です。ロータリーの輪の広がりに驚かされます。本当に京都で悪いことはできません。

せっかく入会したのですから、何か目標をもって参加したいと考えております。今までは日々忙しさにまぎれ、自分のことで精一杯で、奉仕・貢献などできる余裕はなかったのですが、会社においても少しずつ社員が育ち、私にも精神的余裕がでてまいりましたので、ロータリー入会という、とてもよい機会を与えられたと思って感謝しております。これからも、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



里中 勝司会員

ロータリーと私

京都伏見ロータリークラブ 里中 勝司

2003年12月14日、私が54歳になった誕生日の翌日に京都伏見ロータリークラブへ入会させていただきました。

会員の皆様とご家族が参加されたクリスマス家族例会が例会への初出席となりました。入会后にまず感じたことは、年代や性別を超えて会員同士が〇〇さんと呼び合い和気あいあいと話している様子でした。普段は気難しそうに見える方もロータリークラブという触媒を通じると話しやすくなるような気がします。私自身はロータリークラブへ入会する迄は、日々の仕事の忙しさに社会奉仕やロータリークラブなどの活動をする時間がないと思っていたのですが、今回の入会を契機にロータリー財団、米山奨学金を通じて、ささやかでも社会奉仕に貢献できることが自らの仕事への励みとなります。毎週の例会出席は時には重荷になることもありますが、出来る限り出席をして会員の皆様と知り合いになり、日常生活では出会わないであろう方々と出会う機会や話し合いが出来ることに喜びを感じます。

ロータリークラブの綱領を实践し、日常の活動も含めて事業生活や社会生活に取り組む場にロータリークラブがあると考えます。



宇多 雅詩会員

駆け足で…。

京都伏見ロータリークラブ 宇多 雅詩

入会させていただいた事に喜びを感じ、勤められていた早い時期にと、残念に思いながら満足している今日このごろです。当初、苦痛であった例会への出席規則の厳しさに、いつまで続くことやらとと思っていた不安感からようやく解放され、心待ちができるようになって参りました。拘束がかかりますと、苦痛だったのですが、雰囲気と温もりは、大切なものだなあと実感いたしました。門外漢の時は、経済力豊かで社会的地位や名誉があり、多分野で活躍されている特別な方々の自己満足集団だと、ねたみと偏見を持っていたのですが、身を置きますと、謙虚に自信と誇りが持てる素晴らしい団体で、品格ある良き諸兄に感化され、最初の緊張感もほぐれ、安堵感と安心感に変わり、ゆとりと安らぎが保て、気持ちも解放できる様になりました。

結構、横箸で行儀の悪い私も、素晴らしい先輩諸兄の影響を受けながら、自己研鑽に励めるようになって参りました。クラブの西も東も判らないまま、諸兄の所作、雰囲気を身につけることのみで終始し、綱領にあった事もできず、重さとしばりに押し潰されそうであった1年でした。がです、救いは先輩諸兄が非常に優しく、紳士で素敵であったことです。ここに至って「ロータリアンの幸福」20項目の点検を行いました。18項目に満足しております。まだまだ未熟でついていけない状態ですが、この辺りに活路がありますので、諸兄との融和と親睦を更に深め、綱領の理解と実践ができるよう努力して、信条であるところの「奉仕の理想」に、一歩でも早く近づけるよう邁進して参ります。



南部 登志子会員

初めまして

京都田辺ロータリークラブ 南部 登志子

幼少の頃から放浪癖のあった私は、自転車や徒歩で校区外まで出掛けることを密かな楽しみとしていました。そんな私が大学生になり、海外への旅に出るようになったのは、当然のことであったのかもしれませんが。一時は海外への留学も真剣に考えていました。その時に知ったのが、ロータリー財団の奨学金です。結局、留学はしませんでした。縁とは本当に不思議なものです。

この度、京都田辺ロータリークラブでお世話になることになりました。これまで私が細々と行ってきたボランティア活動の経験を活かして、日本社会や国際社会に貢献できれば、と考えています。

ちなみに、フィリピンには延べ3年半にわたって暮らしておりましたので、タガログ語の通訳は可能です。といっても、日常会話程度ですが…。現地の情報にも詳しい方だと思いますので、何かあれば気軽にご連絡下さい。

最近「きょうと夜まわりの会」という野宿生活者(ホームレス)支援団体の活動に携わっています。長引く不況の中で、失業やリストラを契機に、野宿生活に突入していかざるを得ない方々が急増しています。多くの方が、職を求めて活動されていますが、高齢などを理由に困難な状況に追い込まれています。安定した日本の社会を築いていくことこそが、十分な国際貢献をしていくための基盤となるのではないかと、そう感じる毎日です。

これからお世話になります。宜しくお願い致します。



菱田 重雄会員

ロータリーと私

奈良ロータリークラブ 菱田 重雄

私は昨年7月より当クラブに入会しておりますが、その前は青森東RCに所属しておりました。青森というと北の果てというイメージで、暗い印象を持つかもしれませんが、自然環境に恵まれて私にとって忘れられない素晴らしい思い出の地でありました。

当時の親睦活動でローターアクトやインターアクトの人達と八甲田山に植林をしたり、奥入瀬渓流でゴミ拾いのボランティア活動を積極的に行いました。当時、私は単身赴任で休みの日は自由に活動できる身軽さがあったからこそ参加出来たのですが、それらの事業の後の近隣の温泉の入浴やバーベキューの食事の会等は、まさに趣味と実益を兼ねたストレス発散の場であったといえます。

私がRCの最大の魅力であると感じるのは、多くの職種や多様な価値観やバックグラウンドを持った人達と交流が図れることです。日頃思いの外、同業や同種の仲間とか仕事上のお客様としか言葉を交わしてなかった自分の今までの行動パターンを気付かせてくれました。

金融機関の地方支店長という立場で、色々制約のある私ですが、今後可能な限りロータリー活動に参加して、あらゆる人達との交流を深めていきたいと思っております。



森本 茂会員

ロータリーと私

大和高田ロータリークラブ 森本 茂

私は、スポーツが好きで特に野球が大好きです。少年の頃から長嶋に憧れ野球に取り組んでいました。

このような中・高校・大学・社会人野球を通して一番に得たことは、「チームワーク」の大切さと「人と人との繋がり」であり、正しく人間関係の大切さを学びました。

チーム全員が目標に向かって邁進し、勝利を得た時の喜びは筆舌には表すことができません。その喜びを味わうためには、監督並びにコーチの統率力・指導力が優れていることとチーム内の個々人を把握し、慈愛の精神・信頼関係で結ばれていることが大切です。したがって、苦しい練習にも耐えることができるし、次に待っている喜びのために全員が一丸となって頑張ることができたと思います。また、野球を通して地域の少年野球チームをNTT OBが集い指導・育成してきたことは、ロータリーで提唱している「四つのテスト」すなわち、親睦と奉仕の理想を何も意識せず実践できていたことは、少なからず子供達には貢献できていたのではないかと感じています。

ロータリークラブは、親睦と奉仕の理想等を語る場であり、様々な業種の人達と接する機会があることから、自分の職業以外の専門的な知識や情報を得るとともに私からも大いに発信し、人と人との繋がりを大切に気楽に楽しめる社交の場にしたいと考えています。最後にロータリーの奉仕は、基本的には個々の専門的職業を通して、社会に奉仕することにあると思っております。奉仕の理想を求めて自分の仕事を通じ、社会に役立つ奉仕ができればと私自身思っております。



巽 基悦会員

ロータリーと私

大和高田ロータリークラブ 巽 基悦

先輩の方々から、色々な一流の方との出会いで、「今までと違った世界が体験でき、自分の器が大きくなるよ」と勤めていただき、15年12月に入会させていただき3ヶ月余りになります。先輩の方々の温かい声かけや、アドバイスで楽しく例会に出席させていただいています。ロータリーは、物豊かで、健康で、経済的に恵まれ、子孫にも恵まれた、心豊かな方々の集まりで、地域を代表するエリート集団というイメージがあり、このような集団に入会させてもらえたかと大変うれしく思っています。ロータリーのバッジを付けていただけて、何人かの人に声をかけていただき、やはり地域の方々に注目されているのだなと感じています。今の世の中、日本民族の特性であった、親孝行の精神、友情、兄弟愛、助け合いの精神、そして郷土愛や、地域や国を愛するという日本人としての精神的バックボーンと心の芯が、崩壊、溶解しつつあります。ロータリーは、今のところ、物の方の奉仕に重きを置いているように感じますが、ロータリーの奉仕の理想を広める努力をして、心の持ち方、考え方とか、精神の方の奉仕にも、もう少し力を入れていただけたらと思います。我々も、若い方々に生かされている喜びや、感動の心、社会に積極的に参加し貢献しようという意欲を引き出す努力が必要です。ロータリーの綱領をしっかりと肝に入れて、『四つのテスト』に照らして、常に行動し、世のため、人のため、自分のために奉仕する楽しさを味わいながら、努力していきたいと思っています。又女性の方の新会員の入会と、100%の出席を目標にしながらも、2ヶ月に一回ぐらいの休みを取れる余裕があってもいいのではないかと考えています。



横山 豊会員

ロータリーと私

大和高田ロータリークラブ 横山 豊

昨年4月奈良に転勤となり、7月に大和高田ロータリークラブに入会させて頂きました。私は昭和62年に住友生命に入社し、平成4年からは営業第一線の機関長をやっており、各地域の企業の社長様と仕事を通じて色々とお世話をさせて頂く機会も多かったのですが、その時に各地のロータリークラブに入会されている社長様とお話をさせて頂くことも多々あり、ロータリークラブはその地域を代表する方々が入会されている団体で、自分とは世界の違う人達の集まる場と思っておりました。そんな思いの中で、自分がロータリークラブに入会できるなんて思いもしない出来事でした。奈良に来てロータリークラブに入会されている社長様にお会いすれば、やはり皆さん立派な方ばかりで、自分が入会して本当に大丈夫なのだろうかと不安でいっぱいになりました。入会させて頂いてもうすぐ8ヶ月が経ちます。今も例会等では緊張の連続ですが、そんな中で自分が学びとった一番のことは、ロータリーの精神である「四つのテスト」です。仕事をしていく上だけでなく生きていく上での大切なこと、それがこの「四つのテスト」に凝縮されているように思います。まだまだ未熟者で「四つのテスト」に照らし合わせて行動していても、それが正しくできているかどうかはわかりませんが、今後も自分自身の行動指針としていきたいと思っております。これからもロータリークラブを通じて、諸先輩の皆様から色々とお勉強させて頂いて、少しでもロータリアンらしい行動ができるように自分を磨いていきたいと思っております。今後ともご指導を宜しくお願い致します。

地区内各クラブ事業報告(1)

「交通安全啓発横断幕寄贈」

京都乙訓ロータリクラブ 会長 辻 清和
会報・資料委員長 小泉 勲



社会奉仕の一環として、春の交通安全運動を前に、交通安全対策に役立ててもらおうと去る3月5日乙訓二市一町に対し、交通安全啓発横断幕を寄贈しました。「早めのライト 安全サイン」「自転車利用者のマナーアップ「夕暮れ時のライト点灯」のスローガンが町の要所要所に掲出され、ドライバーや自転車を利用する人々に注意を促すよう二市一町では街頭での交通安全啓発活動に活用されることになっています。社会奉仕委員会ではこれからも人々によるこぼれ感謝される奉仕活動を続けていきたいと考えています。

地区内各クラブ事業報告(2)

「カンボジアに心の井戸を」

檀原ロータリクラブ 社会奉仕委員長 守金 眞滋



本年度RIテーマ「手を貸そう」の中に、『あなたの地域社会あるいは他国の地域社会の全住民に安全な水を供給し』とあります。

私達は蛇口を開けると当然のごとく安全な水が流れ、それを惜しみなく使っていますが、世界には生活用水すべて汚れた川の水に依存して暮らしている地域が少なくありません。

奈良東大寺僧侶、内田弘慈氏がカンボジアに渡り、住民の生活環境を改善しようと長年井戸を掘り続けておられる事を以前から聞いており、私達檀原RCでも現地に井戸を掘ろうと、会長はじめクラブで意見が持ち上がりました。井戸三基と内田僧侶が作られた児童福祉施設「だるま愛育園」に金一封を寄付する案が纏まり、直接現地に赴き贈呈することに決まりました。

2月28日、シェムリアプ川下流の村を訪れ、洗顔、水浴、料理、洗濯から排泄まで、川の水に依存しているのを目のあたりにしました。



一方依頼しておいた井戸は既に完成しており、その真新しい井戸で主婦が洗い物をし、子供たちが水を飲んでいるのを見て、村人の生活環境が改善されつつあるのを実感することが出来ました。

贈呈式を行っただるま愛育園では3才から18才迄の両親のいない孤児に識字や民族舞踊を教えており、現地の楽器演奏で私たちを歓迎してくれました。お土産に持参したクレヨンやボールペンに目を輝かせた子供たち。野口会長自ら井戸水を飲まれる等、村人達との交流は、厳しい暑さを忘れさせてくれた一時でした。

2004年大阪国際研究会への参加お願い

- 大阪国際研究会 5月20日～5月22日 於：大阪国際会議場 5F メインホール
登録料 一人 US \$ 200 同伴者 US \$ 185

□ 研究会には日本語の同時通訳が用意されます。

研究会期間中は、日本語の同時通訳がつき、また、日本語によるグループ討議も2回予定されております。通訳装置の価格は、¥1,500(税込み)です。なお、お手持ちのFMチューナー付きラジオ(イヤホン付)をご持参いただければ、装置を購入いただく必要はございません。

□ ロータリアンの方はどなたでも研究会へ参加できます。

国際大会へ登録済みのロータリアンの方はどなたでも、研究会会場の登録所で追加登録できます。RIの事前登録受け付けは終了いたしました。大阪国際会議場の5階メインロビー登録所で、5月20日(木)午後3時～7時および21日(金)午前8時から登録を受け付けます。

* 5月22日(金)国際研究会の閉会(午後4時)後、「京都デー」に参加ご希望の方は、会場から京都往復のバスを用意いたします。バス代は、京都デー参加費用(お一人¥10,000)に含まれ、当日お支払いただきます。ご希望の方は、下記へお申込み下さい。詳細をご案内申し上げます。

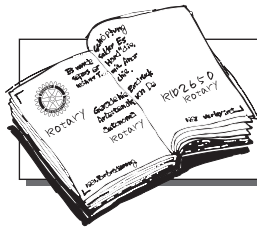
「京都デー」実行委員会 事務局

TEL : 075-211-5550 / FAX : 075-211-8880

Email : kd2004@mbox.kyoto-inet.or.jp

プログラム

5月20日 17:30 - 19:00	歓迎 レセプション	この打ち解けた行事において古くからの友人たちと旧交を温め、その他の研究会参加者と知人になってください。
5月21日 9:00 - 17:15	開会本会議	ジョナサン・マジアベRI会長による「手を貸そう」講演
	第2回本会議	RIの長期計画についてのパネル討論会
	昼食会	
5月22日 9:00 - 16:00	グループ討論	約10テーマについて
	第3回本会議	グレン・エステスRI会長エレクトによる「創立百周年の見識」講演
	第4回本会議	住友信託銀行社長高橋温氏による「世界経済と日本経済」講演
	昼食会	
	第5回本会議	ジェームス・レーシーR財団管理委員会委員長による講演
	閉会本会議	カールヴィルヘルム・ステンハマーRI会長ノミニーによる「ロータリーの百周年を超えて」講演 ジョナサン・マジアベRI会長による閉会の辞



文庫通信 (199号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー 50 周年記念事業の一つとして 1970 年に設立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1 万 9 千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

一新着のロータリー資料から

- ◎ 「『ロータリーの綱領』について」 吉松成人 (D.2730 ガバナー月信) 2004 2P
[申込先：ロータリー文庫]
- ◎ 「ロータリー地域社会共同隊 (R C C) ガイドブック」 D.2760 2003 172P
[申込先：川井健司 FAX(052)582-9087]
- ◎ 「ポリオ・プラス活動の歩み (2000-01、2001-02 年次)」 D.2520 2003 13P
[申込先：ロータリー文庫]
- ◎ 「ロータリー、その原点と変遷」 油木恒久 2003 41P [申込先：ロータリー文庫]
- ◎ 「R O T A R Y が楽しく身につく本 (I I) 基本を正しく理解しよう」 松島正康
1999 120P [申込先：高岡 R.C. FAX(0766)25-4477]
- ◎ 「ロータリーは家庭から」 小林 博 2003 40P
[申込先：札幌がんセミナー FAX(011)222-1526]
- ◎ 「ロータリー会員増強ガイドライン」 D.2510 2003 10P
[申込先：札幌がんセミナー FAX(011)222-1526]
- ◎ 「ロータリーあれこれ」 青森 R.C. 1991 20P [申込先：ロータリー文庫]

ロータリー文庫

〒 105-0011 東京都港区芝公園 2-6-3 abc 会館 7F
TEL (03)3433-6456 FAX (03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館 = 午前 10 時 ~ 午後 5 時 休館 = 土・日・祝祭日

